アフリカの若者のための
産業人材育成

ABEイニシアティブ

African Business Education Initiative for Youth

ABEイニシアティブについて知りたい人は

JICAウェブサイト「ABEイニシアティブ」
https://www.jica.go.jp/africahiroba/business/detail/03/index.html

アフリカについて知りたい人は

JICAウェブサイト「アフリカひろば」
https://www.jica.go.jp/africahiroba/

JICAの拠点について知りたい人は

JICAウェブサイト「国内・海外のJICA拠点」
https://www.jica.go.jp/about/structure/index.html

研修員のインターン受け入れに関心のある人は

ABEイニシアティブポータルサイト（外部サイト）
http://education-japan.org/africa/index.html

独立行政法人国際協力機構 アフリカ部
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL：03-5226-8208　Email：abe2@jica.go.jp
http://www.jica.go.jp/

2019年7月

ABEイニシアティブとは

ABEイニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ：African Business Education Initiative for Youth）は、アフリカの産業人材育成と日本企業のアフリカビジネスをサポートする「水先案内人」の育成を目的として、アフリカの若者を日本に招き、日本の大学での修士号取得と日本企業などでのインターンシップの機会を提供するプログラムです。

2013年に開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD Ⅴ）で日本は、職業教育や高等教育を通じて雇用に直結する人材を生み出す教育と、日本とアフリカ間の人的交流を促進することの重要性を踏まえ、アフリカから日本へ学びに来る若者のため、大学院での教育に加え、日本企業でのインターンシップの機会を同時に提供するABEイニシアティブを発表。さらに、2016年のTICAD Ⅵでは、今後も継続して取り組んでいくことが表明されています。

2014年9月に初めてABEイニシアティブの研修員156人が8カ国から来日しました。それから2019年4月までに、アフリカ54カ国すべての国から1,219人が来日、うち775人がすでにプログラムを終え帰国し、さまざまな分野で活躍しています。

ABEイニシアティブの目的

アフリカの成長の鍵となる産業人材の育成

日本企業のアフリカビジネス「水先案内人」の育成とネットワークの構築

アプローチ

日本政府と産業界の共同プログラムとして修士号の取得と企業でのインターンを実施

長期留学により日本社会や企業文化などに理解を持ち日本らしい実践的なビジネスのノウハウを持つ人材を育成

プログラムの概要

■JICA　■日本の大学　■日本の企業

《来日前》

約3カ月	募集
約6カ月	選考 ・書類審査　・面接
	選考 ・書類審査　・面接

《来日》

1年～2年6カ月	大学院修士課程 工学・経済・経営学・農学・理学・商学・観光 など
	ビジネスプログラム
	夏期インターン
2週～6カ月	修了時インターン

《帰国》

《帰国》

帰国後	フォローアップ ・帰国報告会 ・現地ネットワーキングフェア ・モニタリング など
	連携・ビジネス展開

ビジネスプログラム
全員が参加。企業見学、ネットワーキングフェア、ビジネスマナー、日本文化理解、日本語講座など。

夏期インターン
全員が実施。実施期間は2週間程度。1年目の夏休みに実施（企業からのオファーがあれば2年目も可）。

修了時インターン
受入企業および所属先から同意が得られた研修員のみ実施。実施期間は2週間～必要に応じて最大6カ月間。

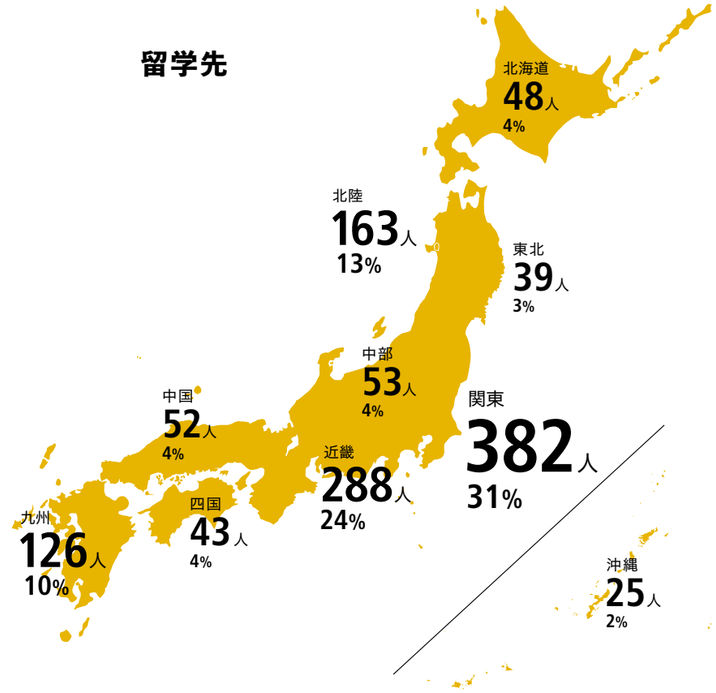
企業登録　ABEイニシアティブの研修員に関心がありインターンシップの受け入れを希望する企業が登録

- アフリカ進出の「水先案内人」として活躍が期待される研修員とのつながりができる。
- 研修員との交流を通じて現地の情報が得られビジネスチャンスの発掘に役立つ。
- 登録企業には研修員のプロフィールや各種ビジネスセミナー、交流会、イベントなどの案内が届く。

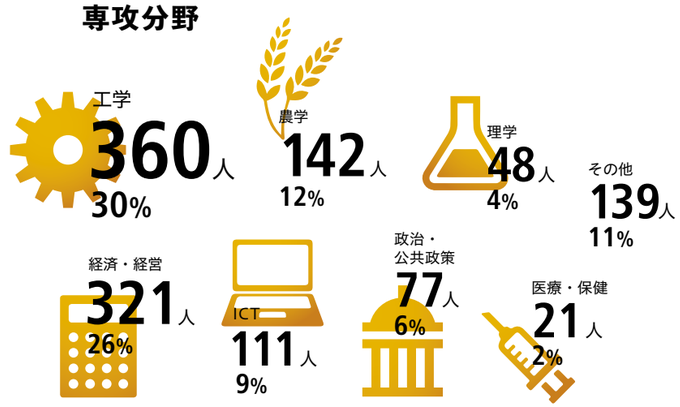
受入実績

第1バッチ	2014年9月	156人
第2バッチ	2015年9月	317人
第3バッチ	2016年9月	348人
第4バッチ	2017年9月	279人
第5バッチ	2018年9月	119人
累計		1,219人

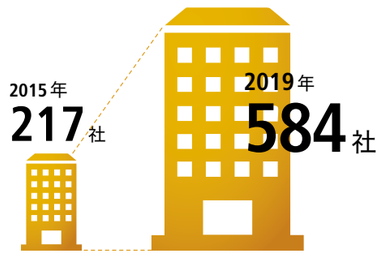
留学先



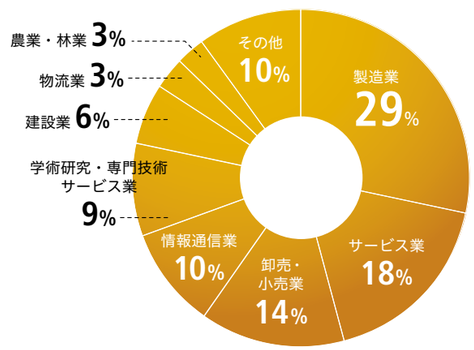
専攻分野



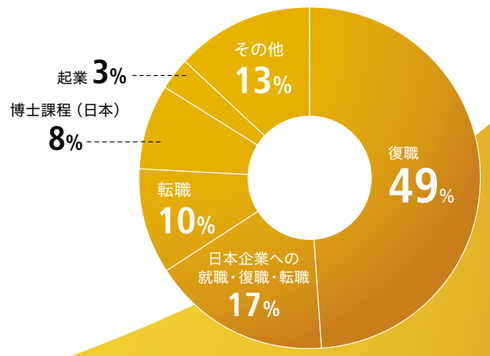
インターン受入登録企業数



インターン受入登録企業の業種



帰国後進路



2019年6月現在　／　小数点以下を四捨五入

新素材を使った自動車内装品の開発に取り組んでいます

Ms. Marieme Josephine Lette
マリエム ジョセフィーヌ レッテさん

セネガル

バッチ	第2バッチ（2015年9月～2017年9月）
大学	芝浦工業大学大学院 理工学研究科
インターン先	トヨタ紡織株式会社
応募時所属先	カメルーン国 ラ・コット私立大学物理学部（学生）
現在所属先	トヨタ紡織株式会社

修士課程修了を記念して指導教官と

議論を重ねながら自動車内装品の試作に取り組むマリエムさん

来日前
日本でものづくりを学びたい
カメルーンの大学で物理学を学んだ私は、母国の発展に貢献するため日本でものづくりを学びたいと考えていました。また、ABEイニシアティブは日本企業とのネットワークを築けることも魅力でした。

滞在中
技術の研究と実用化に取り組んだ留学生活
芝浦工業大学では環境問題の解決に向けて、プラスチックの代替として注目される植物由来の複合材料「グリーンコンポジット」を研究しました。指導教官がセネガルで行った複合素材研究の調査に同行してくれたことがきっかけとなり、母国サン・ルイ大学と芝浦工業大学との共同研究も始まろうとしています。インターンではバイオ素材の自動車関連製品の試作に携わり分析的思考が身に付きました。

現在
持続可能な社会を追求し日本で研鑽（けんさん）
2018年にインターン先のトヨタ紡織に就職し、現在は愛知県にある開発センターで自動車の内装品の開発を手掛けています。センターでは試作品をテストしたり、国内外のバイオ関連企業と会議を行ったりする日々を送っています。ABEイニシアティブでは、多くの企業と意見を交換をする機会もあり、その経験が役立っています。日本の技術だけでなく、事業開発やマネジメントのスキルも学ぶことで、将来は母国やアフリカの環境に配慮した発展に貢献したいと思います。また、アフリカに進出する日本企業の支援にも携わりたいと考えており、そうしたキャリア形成や起業も視野に入れています。

安全な水の安定供給に日本の技術・製品を生かしたい

Mr. Haji Mussa Ramadhan
ハジ ムッサ ラマダンさん

タンザニア

バッチ	第2バッチ（2015年9月～2017年8月）
大学	東洋大学大学院 国際地域学研究科
インターン先	株式会社NJSコンサルタンツ
応募時所属先	ザンジバル水公社
現在所属先	ザンジバル水公社

インターン先では日本の上下水道技術を体験的に学んだ

ザンジバルのウジニ地域で給水設備の試験に立ち合うムッサさん（中央）

来日前
アフリカの発展のために
タンザニアのザンジバル水公社の商用・顧客サービス部長として、利用者の多様なニーズに対応していました。ABEイニシアティブに参加したのは、アフリカの発展に貢献したいという思いからです。

滞在中
水資源を生かす日本の技術を学ぶ
東洋大学では水資源を生かす日本の技術などを通じ、経済的、社会的に発展するための方法を学びました。具体的には、近代的なインフラ、水と衛生、防災、新プロジェクトの立案などについてです。インターンを行った上下水道分野のコンサルティング企業では、日本の組織文化、職場環境、意思決定、タイムマネジメント、品質管理などの現場を経験することができました。

現在
持続的な給水ネットワークを
水公社に復職後、総裁を任されることになりました。同公社は都市や地域への給水から水源の保護、管理も担います。とても責任ある仕事ですが、国のために尽力できる誇りを感じています。今後も安全な水を安定的に共有するため、現在JICAと協力し、都市部の西側の地域で給水ネットワークをつくる新しいプロジェクトを進めています。ABEイニシアティブは、「ザンジバルを東京のような都市に成長させたい」と大志を抱くきっかけを与えてくれました。日本や日本企業との良い関係を築き、日本の高い技術・製品が生かされるよう、政府に紹介していきたいです。

起業して日本のアフリカ進出を後押ししています

Mr. Katabaruka Olivier Kabi
カタバルカ オリビエ カビさん

コンゴ民主共和国

バッチ	第3バッチ（2016年9月～2017年9月）
大学	名古屋商科大学大学院マネジメント研究科
インターン先	株式会社ラミーコーポレーション
応募時所属先	パンロ社（民間企業）
現在所属先	ランピリス社（起業）

インターン先の企業ではラミネーターの修理やメンテナンスも体験した

コンゴ民主共和国での事業展開を目指す日本の商社をアテンドするオリビエさん（右）

来日前
キャリアを広げるために来日を決意
カナダ系金鉱採掘会社で金の精製・加工工程の責任者を務めていました。マネジメントスキルを磨いてキャリアアップしたいと考えたこと、“高品質の国”への好奇心が日本で学ぶことを決めた理由です。

滞在中
大学院でMBAを取得
大学院では経営学を専攻し、英語による講義やオンライン図書館など、充実した環境で研究を行うことができました。公私にわたりサポートしてくれた指導教官とは、今も交流を続けています。インターンでは、ラミネーター事業を手掛ける企業でアフターサービス業務を体験。事業のバリューチェーンという考え方や、細部にまで気を配って仕事をする日本のビジネス文化を学ぶことができました。

現在
アフリカを目指す日本企業のパートナーに
コンサルティング企業を立ち上げ、日本企業のコンゴ民主共和国をはじめとするアフリカへの進出を支援しています。支援分野は調達や物流、マーケティングなど多岐にわたります。ABEイニシアティブを通じてMBA（経営学修士）を取得したほか、日本でのインターン経験が、日本企業とビジネスする上での自信と交渉力につながっています。あらゆる分野のビジネスが発展している日本で過ごす中で、アフリカが持つビジネスの潜在性にも気付かされました。アフリカ進出を目指す日本企業のキーパートナーとなることでビジネスを創出し、母国の雇用や経済成長に貢献することが目標です。

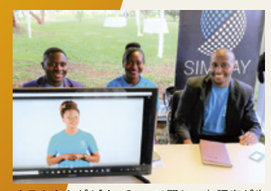
日系ベンチャー企業の新規事業開拓に携わりました

Ms. Olum Michelle Adhiambo
オラム ミッシュェル アディアンボさん

ケニア

バッチ	第1バッチ（2014年9月～2017年4月）
大学	名古屋大学大学院 国際開発研究科
インターン先	日本工営株式会社
応募時所属先	国民医療保険基金（ケニア政府機関）
現在所属先	—

休日には大学院の友人らとさまざまなところに出かけ親睦を深めネットワークを広げた


オラムさんがAfricaScanで関わった調査が生活習慣病予防アプリの開発につながった

来日前
日本のODAとケニア政府機関を経験
ケニアの大学を卒業後、開発コンサルティング企業である日本工営のケニア現地法人でJICA関連プロジェクトなどを約3年間担当し、その後、ケニアの国民医療保険基金に5年半、勤務しました。

滞在中
日本で開発協力を学ぶ
大学時代から日本に関心があったことに加えて、日本企業でODAに関わったことで、「日本で開発を学びたい」という思いが強くなりABEイニシアティブに応募しました。留学先の名古屋大学では、さまざまな国の留学生と共に多様な視点から開発協力について学びました。インターン先は以前勤めていた日本工営の本社でした。実務を経験しただけでなく、日本の病院で保険システムの現場を見学する機会にも恵まれ、ケニアの保険制度をテーマにした研究を深めることができました。異文化の中で初めての一人暮らしでしたが、適応力が身に付き、新たな世界観が広がりました。

現在
新たなキャリアを模索
帰国後、ケニアで予防医療事業を展開する日系ベンチャー企業のAfricaScanに依頼され、中間所得層の栄養状態を調査しました。これはAfricaScanがケニアで保健関連の新規事業を開拓するための調査でした。ABEイニシアティブの1期生として、両国の開発協力に関わることができ、嬉しく思っています。現在はマーケティングやリサーチといった分野で新しいキャリアに進む準備をしています。

インターン先企業の ルワンダ進出をサポートしています

Mr. Mugarura Amiri
ムガルラ アミリさん

ルワンダ

バッチ	第1バッチ（2014年9月～2016年8月）
大学	神戸情報大学院大学 ICTイノベータコース
インターン先	音羽電機工業株式会社
応募時所属先	データ・エキ（民間企業）
現在所属先	データ・エキ（同）

最先端のIT技術や情報に触れられる大学院で研究に取り組むアミリさん

アミリさん（右端）は音羽電気工業のルワンダ展開を現地でサポートしている

来日前
高いICT技術を持つ日本で学びたい
友人と共同で設立したICT（情報通信技術）企業「データ・エキ」で技術責任者として働いていました。専門性を高めるため日本で学びたいと考え、ABEイニシアティブに参加しました。

滞在中
先端技術に刺激を受ける
神戸情報大学院大学では、さまざまな物をインターネットでつなぐIoT、ビッグデータ解析などのデータサイエンス、プログラミングといった先進技術を学び、情報システムの修士号を取得しました。また、インターン先の音羽電機工業では、落雷被害が多いルワンダにも効果的な高性能の避雷器があることを知り、強い刺激を受けました。また、労働環境を整えることの大切さ、ビジネスに取り組む姿勢など、経営者とて重要な多くのことも学ぶことができました。

現在
日本とルワンダの懸け橋として活躍
データ・エキの社長として復職し、教育や農業などさまざまな分野で社会問題の解決につながるアプリケーションの開発などに取り組んでいます。また、日本でお世話になった音羽電機工業とルワンダの民間･公的機関とをつなぎ、JICAの中小企業支援スキームを活用して、同社の雷被害対策技術や製品をルワンダへ展開するお手伝いをしています。ABEイニシアティブを通して国内外でさまざまな人脈を築くことができ、キャリアアップにもつながりました。今後も自分の会社とともに成長し、ルワンダの発展に貢献したいと思います。

「おかげさま」の精神で 日本とアフリカをつなぎたい

Ms. Buyisile Zinhle Nzima
ブイスィーレ ズィンシェ ンズィマさん

南アフリカ

バッチ	第3バッチ（2016年9月～2018年6月）
大学	国際大学大学院 国際関係学研究科
インターン先	日本信号株式会社
応募時所属先	Grow2Lead（米国NPO団体）
現在所属先	丸紅株式会社ヨハネスブルグ支店

日本信号ではさまざまな国の研修員がインターンを経験　写真：日本信号株式会社

丸紅ではサブサハラ諸国でのビジネス開発を担当している

来日前
日本からアフリカを見てみたい
南アフリカの大学で商業を学んだ後、アメリカで学生支援団体やキリスト教系の慈善団体で活動を経験し、アフリカの開発について日本側から学びたいと考え、ABEイニシアティブに参加しました。

滞在中
日本で学んだ他者理解と思いやり
国際大学では50カ国以上の留学生と共に、学問だけでなく、文化的多様性と他者理解を学びました。研究科の学生学術評議会長に選ばれ、修了式で総代としてスピーチしたことは大変光栄でした。生活のさまざまな場面で、日本社会が他者への心配りに満ちていることにも感銘を受けました。インターン先の日本信号では現場主義を学び、日本の製造業の強さと技術の高さを実感しました。また、アフリカでのビジネス戦略について議論を深めることができました。

現在
日系商社でビジネス開発
現在は、丸紅のヨハネスブルグ支店で、アフリカ・サブサハラ諸国のビジネス開発を担当しています。日本とアフリカをつなぎ、この地域の発展に貢献できる仕事に巡り会えたことは、非常に幸運で、誇りに思っています。ABEイニシアティブでの学びと経験が、私の人生を大きく切り開いてくれました。当地の言葉で「ウブントゥ」は「誰かのおかげで今の自分がある」という意味で、日本語で言えば「おかげさま」です。この精神をずっと忘れずに、これからも日本とアフリカをつなぐ仕事に励んでいきたいと思います。

日本企業でビッグデータを使った ビジネスに取り組んでいます

Mr. Mohamed Batran
モハメド バトランさん

エジプト

バッチ	第3バッチ（2016年9月～2018年8月）
大学	東京大学大学院 工学系研究科
インターン先	三菱重工業株式会社 一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構
応募時所属先	エジプト・ペンハー大学 助手
現在所属先	楽天株式会社

世界銀行で行われたカンファレンスでプレゼンテーションをするバトランさん

国際色豊かなオフィスでデータサイエンティストとして活躍している

来日前
視野拡大と多文化経験を求めて
エジプトの大学で地図情報技術を専攻し助手をしていました。視野を広げ多文化を経験するため、ABEイニシアティブに参加しました。

滞在中
専門を深め国際舞台を経験
大学院では、ビッグデータによる動線分析など空間情報分野で最先端の研究室に所属し、関連する論文を5本ほど執筆したほか、海外でも研究発表をしました。また、ルワンダで行われたアフリカ最大級のITイベント「トランスフォーム・アフリカ・サミット」に招待され、各国のリーダーと意見交換をしたり、東京大学、カイロ大学、三菱重工業の共同研究に参加したりと、国際的な舞台を経験できました。インターン先ではITを使った衛星リモートセンシング技術のアフリカ展開を研究するなど、充実した研修となりました。

現在
日本とアフリカをIT技術でつなぐ
現在は東京の楽天本社で、データサイエンティストとしてビッグデータを活用したビジネスに取り組んでいます。ここは多国籍・多文化の職場です。ABEイニシアティブで学んだIT分野の専門知識と国際舞台での経験、そして複数企業でのインターンで得た視点が、現在の仕事に役立っています。日本では、アフリカや中東へ進出したいと思っても、情報不足や人材の制約で実現できないケースが多いように思います。私は今後、専門性を生かして、日本とアフリカのビジネスをIT技術でつないでいきたいと考えています。

起業家・研究者として 引き続き日本で頑張っています

Mr. Ekote Nelson Nnoko
エコテ ネルソン ンノコさん

カメルーン

バッチ	第2バッチ（2015年9月～2017年8月）
大学	関西学院大学大学院 経営戦略研究科
インターン先	特定非営利活動法人 経済人コー円卓会議日本委員会 合同会社DMM.com
応募時所属先	ビション・エンタープライズ（民間企業）
現在所属先	ビション・グループ・インターナショナル（起業） 関西学院大学大学院 経営戦略研究科（博士課程）

第2バッチの激励会のスピーチで研修員のネットワーク化を呼び掛けるエコテさん

アフリカ事業を展開するDMM社でインターンを経験し多くのことを学んだ

来日前
ビジネスの基礎を学ぶ
カメルーンの大学を卒業後、銀行勤務を経て、経営学の修士号を取得しました。その後、農業・建設関連企業に就職し、政府や民間企業との事業契約を行う中で、ビジネスの基礎を学びました。

滞在中
「つなぐ」ことで可能性を広げる
ビジネスの知識とネットワークをさらに広げたくてABEイニシアティブに参加しました。来日直後の激励会のスピーチで研修員同士の連携を呼び掛け、それがアフリカと日本のビジネスをつなぐプラットフォーム「Kakehashi Africa」の結成につながりました。関西学院大学のビジネススクールでは財政学を専攻し、金融系ITも学びました。インターン先のDMM社では、新製品や新事業の企画、投資交渉、アフリカ事業など、さまざまなことを学び、貴重な経験となりました。また、前職の経験と人脈を生かして神戸の食品会社などとカメルーン企業とをつなぎ、新会社の設立に協力しました。

現在
アフリカと世界にビジネスで貢献
プログラム修了後、帰国して農業関連の会社を起業しましたが、関西学院大学の博士課程で学びたいという気持ちが強くなり、再び日本で「公共財政と経済開発」を研究しつつ、自社事業も積極的に進めています。将来的には、アフリカ各国にビジネスを拡大するのが夢です。ABEイニシアティブで得た新しい発想とチャレンジする心、グローバルな視点で、アフリカと世界に貢献していきたいです。

ABEイニシアティブが アフリカビジネスの推進力になっています

三井物産株式会社

経営企画部グローバル業務室 次長
岡村 周作さん

企業概要
所在地：東京都千代田区
業種：卸売業
事業内容：総合商社
（情報、エネルギー、金属、機械ほか）
インターン研修員受入実績：23人
（2019年6月現在）
https://www.mitsui.com/jp/ja/

グローバル業務室次長の岡村周作さん

モザンビーク事業への理解のために

当社はモザンビークで石炭採掘事業やその輸送のための鉄道事業、港湾事業に参画しており、近々、天然ガス事業も開始する予定です。そのため、モザンビークの今後を担う人材に当社の事業を理解してもらえればと、同国を優先的に、これまで23人のインターン研修員を受け入れています。

インターンでロボットアームの制御プログラミングを体験する研修員

社員のモチベーションアップにも貢献

当社の歴史やアフリカでの事業について学んでもらった上で、アフリカ諸国のニーズを踏まえた新規ビジネスプランを提案してもらっています。これまで、アフリカの陸・海・空の輸送インフラをつなぐネットワークをつくろうなど、とても面白いアイデアが出され、われわれにとってもアフリカでビジネスを進める上で大きな刺激になっています。

高まる親近感が新規ビジネスの追い風に

4年にわたりインターンを受け入れたことで社内のアフリカへの関心も高まり、ソーラーホームシステム事業や農産物関連事業など、アフリカでの新規ビジネス参画にも追い風になっています。

また、南アフリカ出身の研修員を、2018年に当社のヨハネスブルグ支店の社員として採用しました。ABE イニシアティブを通じて育ったこのような人材との出会いにも期待しています。

マラウイを拠点に仲間の輪が広がっています

株式会社フェローシステム

人財開発部 部長
馬場 友加吏さん

企業概要
所在地：愛媛県松山市
業種：情報通信業
事業内容：WEBサイトやソフトウエアの開発・保守およびITを通じた障がい者・児支援事業
インターン研修員受入実績：45人
（2019年6月現在）
https://www.fellow.co.jp/

人財開発部長の馬場友加吏さん

マラウイ青年がきっかけで企業登録

日本で英語講師をしながら「ICT（情報通信技術）で国を豊かにしたい」と願うマラウイの青年を紹介され、当社で独自に研修を引き受けたのが2015年。これがきっかけで海外進出に目を向けるようになり、インターン受入企業として登録しました。これまでマラウイをはじめ18カ国から45人の研修員を受け入れています。

ITビジネスと障がい者支援を体験

当社はIT企業として活動する旁ら、ITを軸にした障がい者支援事業も行っています。それらの主要事業を実習で体験してもらいながら、朝礼・掃除や人材育成の仕組みなど、大切にしている組織文化について学んでもらっています。「日本式経営を自国に持ち帰りたい」「障がい者の社会参加についてヒントを得た」など、新しい視点を得てもらっています。

マラウイを足掛かりにさらなる可能性を探る

インターンの受け入れを通じて外国人材との接し方を学び、人脈も築けたおかげで、2018年には、マラウイに現地法人を設立することができました。地元企業や政府、あるいは日本からシステム開発を受注することを目標に事業を進めています。築いた縁を生かし、アフリカで次なる事業展開の可能性も探りながら、より一層、社会に貢献していきたいと考えています。

社内の各部を見学する研修員

アフリカが一番近い外国になりました

日之出産業株式会社

取締役
藤田 香さん

企業概要
所在地：神奈川県横浜市
業種：製造・卸業
事業内容：排水処理薬品製造・販売、排水処理設備の設計施工・メンテナンス
インターン研修員受入実績：31人
（2019年6月現在）
http://www.hinodesangyo.com

取締役の藤田香さん

始まりはTICAD

2013年に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD V）に地元企業として当社の排水処理の技術を紹介するブースを出展しました。その時、アフリカでの環境ビジネスに可能性を感じ、インターンを受け入れることにしたのです。2016年からこれまで、12カ国から31人を受け入れています。

現地の目で当社製品を見てもらう

インターン研修員には、取引先企業で当社の製品が使われている現場を自分の目で確かめてもらっています。その上で、自国の水処理問題の解決に役立てる方法を考えてもらったり、当社の海外でビジネスを展開する上での課題を洗い出してもらったりしています。

セネガル出身者を社員として採用

インターンの受け入れは、当社の海外ビジネス展開に大きな変化をもたらしています。2019年1月には、セネガル出身のインターン1名を社員として採用したほか、複数のインターンと合弁会社の立ち上げを検討しています。

留学先である日本の大学との情報交換や共同研究にもつながりました。また、開発途上国向けに品質を維持しながらコストダウンにも力を入れた製品開発を行うようになりました。

日本から見れば遠い大陸アフリカが、当社にとっては一番近い外国になりました。

自社の薬材が使用されている排水処理プラントを見学する研修員

ビジネスのグローバル展開が さらに加速しました

株式会社 教育情報サービス

代表取締役社長
荻野 次信さん

企業概要
所在地：宮崎県宮崎市
業種：情報通信業
事業内容：ソフトウエア開発、eラーニングシステム開発・構築など
インターン研修員受入実績：1人
（2019年6月現在）
http://www.e-kjs.jp/index.html

代表取締役社長の荻野次信さん

アフリカ展開を模索する中での出会い

「世界のどこでも誰でも教育を受け、教育を発信できるシステムを創る」というビジョンの下、eラーニングシステムThinkBoardをアジアに展開していた当社は、アフリカを次なるターゲットとして考えていました。そんな折、地元の宮崎大学で、ABEイニシアティブの留学生で起業家でもあるケニア出身のクリストファー・マイタイさんに出会いました。その彼がICT（情報通信技術）に関心を持っていることを知り、迷わず当社でのインターンを申し出ました。

3週間のインターン期間中、ThinkBoardについて学んでもらい、ケニアの教育機関や企業でどのように活用できるか調査と企画を手掛けてもらいました。そこに社員も加わり協議を重ね、企画の精度を高めていきました。

外国人との協働が当たり前に

マイタイさんは帰国後、当社がJICAの中小企業海外展開支援事業を活用して実施した現地調査に参加してくれました。その結果、2019年3月にケニア職業訓練庁へ当社の製品が導入されるなど、大きな成果を収めました。

インターン受け入れ後、当社はバングラデシュやインド出身の社員を採用し、今では外国人と共にシステムを開発し、企画・営業することが当たり前になりました。言葉や文化の違いを乗り越え、同じ目標に向かって進んでいくという姿勢は、当社の大きな武器になっています。

ジョモ・ケニヤッタ農工大学の学長（左端）に「ThinkBoard」の説明する荻野社長（中央）とマイタイさん（右端）

地元兵庫で「イノベーション」を巻き起こしています

神戸情報大学院大学

情報技術研究科長
土田 雅之さん

大学概要
所在地：兵庫県神戸市
主な研究科：情報技術研究科
研修員（留学生）受入実績：95人
（2019年6月現在）
http://www.kic.ac.jp/

アフリカのエネルギーで日本も元気に

本学は2013年、多様性を実現し、アフリカなどの開発途上国が持つ発展へのエネルギーを、神戸、兵庫そして日本の再活性化につなげることを目的として、英語で受講できるICT（情報通信技術）イノベータコースを開設しました。ABEイニシアティブの研修員はまさに、こうした活動の中心として、イノベーションの創出に貢献しています。研修員は日本で学んだ技術や課題解決の考え方を自国にどう生かすかを常に考えており、こうした高いモチベーションと目的意識は、本学に良い影響を与えてくれます。

多様な文化の中で日本人学生らと共に課題解決の手法を学ぶ研修員たち

地元企業とアフリカの橋渡し役を担う

ABEイニシアティブの研修員たちは、大学だけでなく神戸市や地元企業とも連携しています。例えば、ルワンダ人研修員が県内の企業と共に落雷事故の多い自国の課題を解決しようとしていたり、ケニアとマダガスカル人研修員が、共同研究先である県内の酒造米製造企業と酒づくりに取り組んだりと、さまざまな連携が生まれています。また研修員たちが、地元が抱える課題の解決に貢献する機会として、災害時の外国人対応の強化を目指す神戸市や百貨店などで問題解決型の実習を行っています。

今後もABEイニシアティブの研修員を受け入れ、企業との連携や人材育成を進めながら、アフリカと日本のさまざまな課題解決につながるネットワークをつくっていきたいと思います。

研修員との連携が生まれ研究が深化しています

筑波大学

人文社会科学研究科 准教授
柏木 健一さん

大学概要
所在地：茨城県つくば市
主な研究科：教育研究科、人文社会科学研究科、ビジネス科学研究科など
研修員（留学生）受入実績：35人
（2019年6月現在）
http://www.tsukuba.ac.jp/

日本の経験を学ぶ研修員たち

ABEイニシアティブは、日本の経済や産業の発展、行政や企業などの経験について学びたいという、研修員の目的意識がとてもはっきりしたプログラムだと感じています。例えば研修員の一人はプログラムを通じ、日本の企業経営や企業統治、企業文化に深い興味を持ち、企業の経営者や就業者の価値観が企業のパフォーマンスに及ぼす影響を多国間で比べて分析しました。また、日本の保健・医療サービス分野における行政組織や行政サービスを研究し、自国の問題点や課題を分析した研修員もいます。

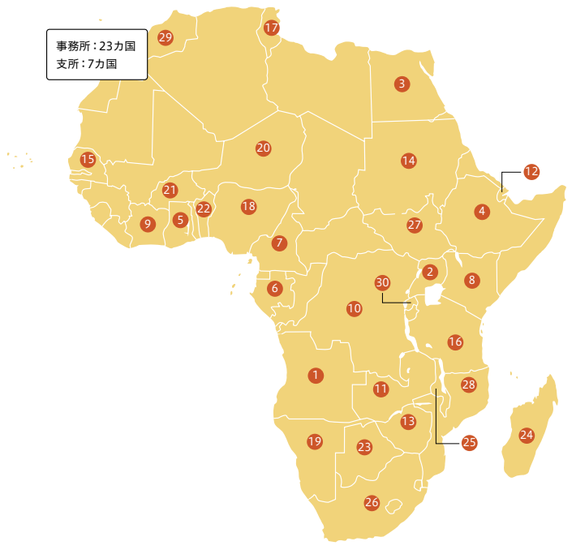
研修員ネットワークで変わる大学

ABEイニシアティブの研修員は、本学とアフリカを結ぶ存在となっています。本学がアフリカで新たに研究活動を展開する際、出身国の大学や研究機関を紹介してもらうなど、研修員たちの国際的なネットワークを活用することで、研究の幅が広がっています。研修員が持つ母国でのネットワークは、本学にとっても極めて有益なものとなっています。

これまで開催されてきたアフリカ開発会議（TICAD）でも、官民連携によるアフリカビジネスの促進は重要なテーマとなっています。本学としては、ビジネス促進に資する人材育成について、より長期的視点から、行政や制度、政策研究に関する博士課程を含む高等教育人材の育成に貢献していきたいと考えています。

研修員たちは研究に打ち込みながらもさまざまな学校行事に積極的に参加している

JICAの拠点



アフリカ

1. アンゴラ事務所
2. ウガンダ事務所
3. エジプト事務所
4. エチオピア事務所
5. ガーナ事務所
6. ガボン支所
7. カメルーン事務所
8. ケニア事務所
9. コートジボワール事務所
10. コンゴ民主共和国事務所
11. ザンビア事務所
12. ジブチ支所
13. ジンバブエ支所
14. スーダン事務所
15. セネガル事務所
16. タンザニア事務所
17. チュニジア事務所
18. ナイジェリア事務所
19. ナミビア支所
20. ニジェール支所
21. ブルキナファソ事務所
22. ベナン支所
23. ボツワナ支所
24. マダガスカル事務所
25. マラウイ事務所
26. 南アフリカ共和国事務所
27. 南スーダン事務所
28. モザンビーク事務所
29. モロッコ事務所
30. ルワンダ事務所

国内

1. JICA北海道 札幌／ほっかいどう地球ひろば
2. JICA北海道 帯広
3. JICA東北
4. JICA二本松
5. JICA筑波
6. JICA東京
7. JICA地球ひろば
8. JICA横浜
9. JICA駒ケ根
10. JICA北陸
11. JICA中部／なごや地球ひろば
12. JICA関西
13. JICA中国
14. JICA四国
15. JICA九州
16. JICA沖縄

SDGs×ABEイニシアティブ

「誰一人取り残さない－No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として17のゴールが持続可能な開発目標（SDGs）として設定されました。

ABEイニシアティブに参加した研修員やインターン受入企業の取り組みは、この国連が定めるSDGsの達成に貢献するものです。

アフリカと日本をつなぐ信頼の懸け橋に

2013年の第5回アフリカ開発会議（TICAD V）では、「民間セクター主導の成長」が重点分野として取り上げられ、日本は、アフリカの経済成長を官民一体となって後押しする一連の支援策を打ち出しました。その一つとして表明されたABEイニシアティブは、経済成長の鍵となる産業人材の育成に協力するものです。

JICAはこのイニシアティブの下、これまでにアフリカ54カ国から1,200人を超える研修員を受け入れ、修了生たちは日本滞在中に培った経験や交流を生かし、母国や日本で、アフリカと日本の橋渡しをする活躍を見せています。

また、ABE研修員のインターンの受け入れや採用をきっかけとして日本企業がアフリカに進出するなど、日本企業のアフリカでのビジネス展開への貢献といった成果も生まれています。

このような成果を一層拡大するため、JICAは、今後も増えるABEイニシアティブ修了生の帰国後のフォローアップを強化していきます。JICAが有するアフリカの約30拠点を活用して、現地で日本企業とのネットワーキングフェアなどを実施し、ABEイニシアティブがより一層、アフリカと日本をつなぐ信頼の懸け橋になるよう協力を続けていきます。

独立行政法人
国際協力機構（JICA）
アフリカ部長
加藤 隆一